

塾長メッセージ

佐藤 りか
(六日町校塾長)

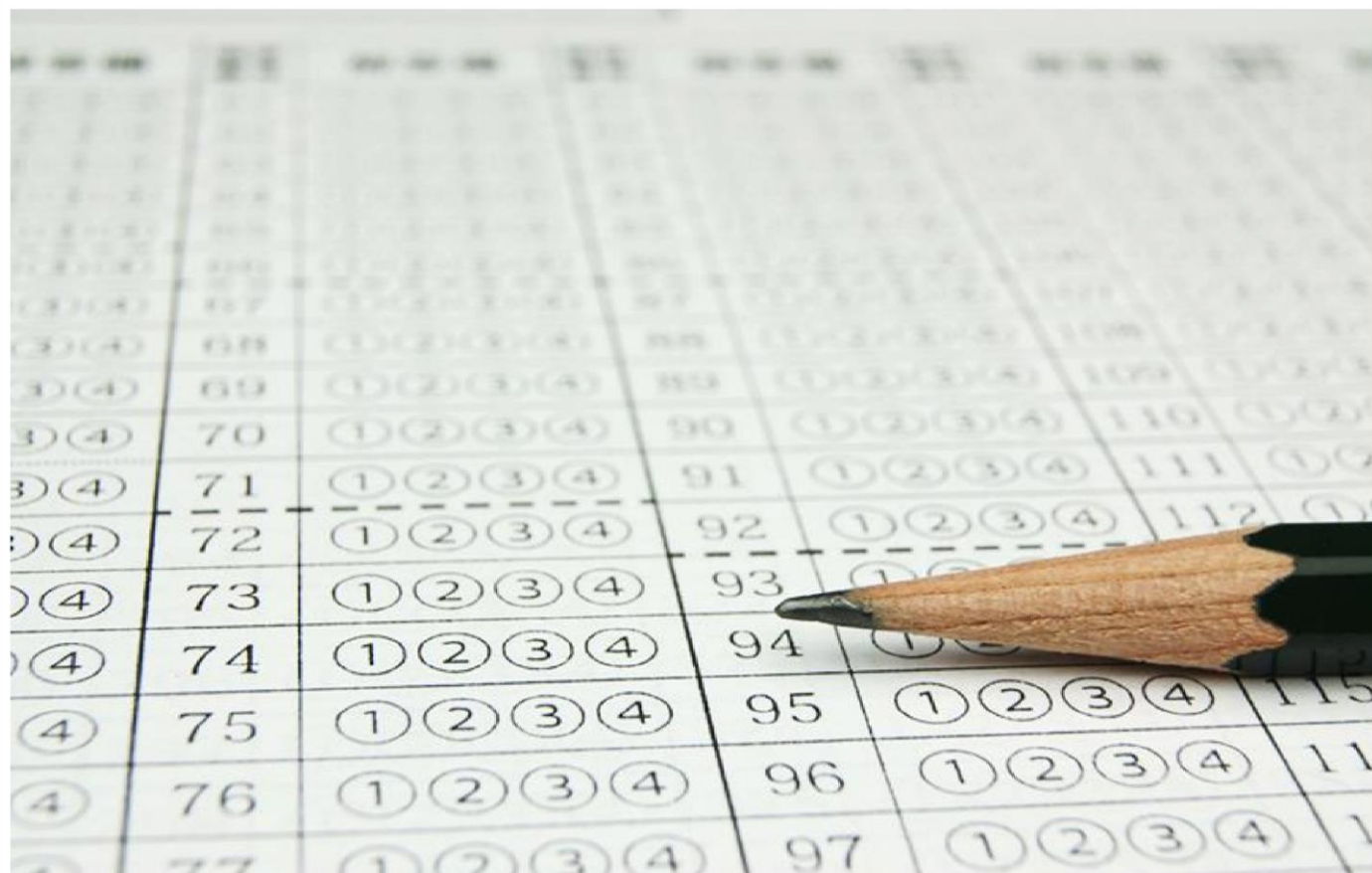


新学期が始まりました。新たな気持ちで勉強を開始できる良い機会です。

三年生においては、受験生としての一年間が始まります。**何事もはじめが肝心**と言うように、**スタートダッシュが結果を決めると**言っても過言ではありません。

学習習慣が早い段階で身に付くよう、保護者の方には、お子さんになるべく頻繁に塾に通うよう促していただきたいと思います。

さて、昨年度の入試結果も全て出揃いました。模試での結果通りに、本番でも見事な成果を上げてくれた人がいる一方で、模試でA判定を取っていながら、残念な結果に終わった人もいます。反対に、**冬の模試でもE判定だったにも関わらず、逆転合格を勝ち取った人もいます。**



今年も受験勉強を終えた生徒一人一人に、受験生活を振り返ってもらいました。そのアンケートの中で、「メンタルの重要性」について言及しているものが多くありました。

「受験は本当にきつかった。いくら勉強してもなかなか結果が出なくて、途中で心が折れそうになりました。」

「痛感したことは、受験ではメンタルが本当に大事だということ。自信がないと本番で焦りを招いて失敗してしまう。」

受験において不安や焦りを感じている時でも、前向きな気持ちで継続していかなければいけないことを、塾では再三にわたり指導していますが、それでも落ち込んで弱気になってしまう。もしお子さんがそのような状態にいる時は、勉強のことにはあまり口を出さず、普段と変わらない態度で見守ってあげることで、お子さんの精神状態も安定してくるはずです。



とは言っても、やはりお子さんの勉強状況や成績が気になることもあると思います。そういう時には、ぜひ塾のスタッフにご連絡ください。

この時期、志望校や今後の勉強計画について話し合うために、各校舎三者面談の機会を設けています。面談をご希望の方はお気軽にご連絡ください。面談日時を設定いたします。

保護者の方とスタッフとが協力して、お子さまの志望校合格に向けサポートしていければ幸いです。

最後になりましたが、今年度もスタッフ一同、万全の態勢で臨んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤りか(六日町校塾長)

H30年度 真友ゼミ 受験結果のご報告

3月末をもちまして本年度(H30年度)の入試が全て終了し、真友ゼミ生の受験結果が全て確定しましたので、以下にご報告いたします。

来年度(H31年度)の入試に挑む受験生のお子さんをお持ちの保護者様にはぜひ下記報告をお子さんとご一緒にお読みいただくようお願い申し上げます。本年度の結果を分析し、来年度入試に向けて皆様に注意していただきたい点をお伝えします。



真友ゼミ生の本年度合格実績

(全5校舎全体)

今年は229名の受験に対し、200名の合格者（第三志望までの合格率 87%）でした。

主要国公立大合格者は、東北大1名、東工大1名、新潟大学10名、新潟県立大1名、上越教育大1名、新潟県立看護大4名、山形大学8名となり、主要私立大合格者は、上智大1名、中央大1名、法政大2名、立教大1名となります。

国公立大学	私立大学
新潟大学(10名)	上智大学(1名)
新潟県立大学(1名)	中央大学(1名)
上越教育大学(1名)	法政大学(2名)
新潟県立看護大学(4名)	立教大学(1名)
長岡造形大学(1名)	明治学院大学(1名)
金沢大学(1名)	成蹊大学(1名)
東京工業大学(1名)	日本大学(3名)
首都大学東京(1名)	東洋大学(2名)
電気通信大学(1名)	専修大学(1名)
山形大学(8名)	亜細亜大学(1名)
秋田大学(1名)	文教大学(1名)
秋田県立大学(1名)	武蔵野大学(1名)
東北大学(1名)	東京農業大学(2名)
宮城大学(1名)	神奈川大学(1名)
弘前大学(1名)	関西大学(1名)

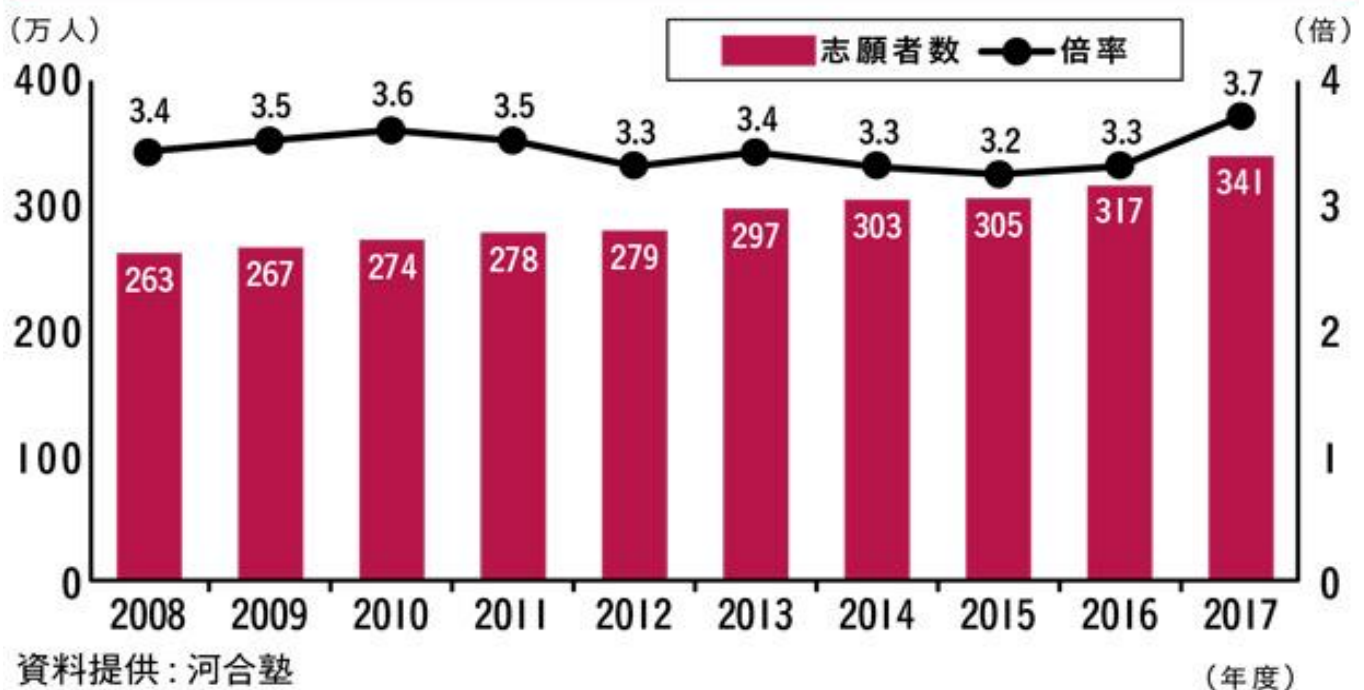
他多数

主要国公立・私立大の合格者数は昨年度よりも大幅に増加しました。

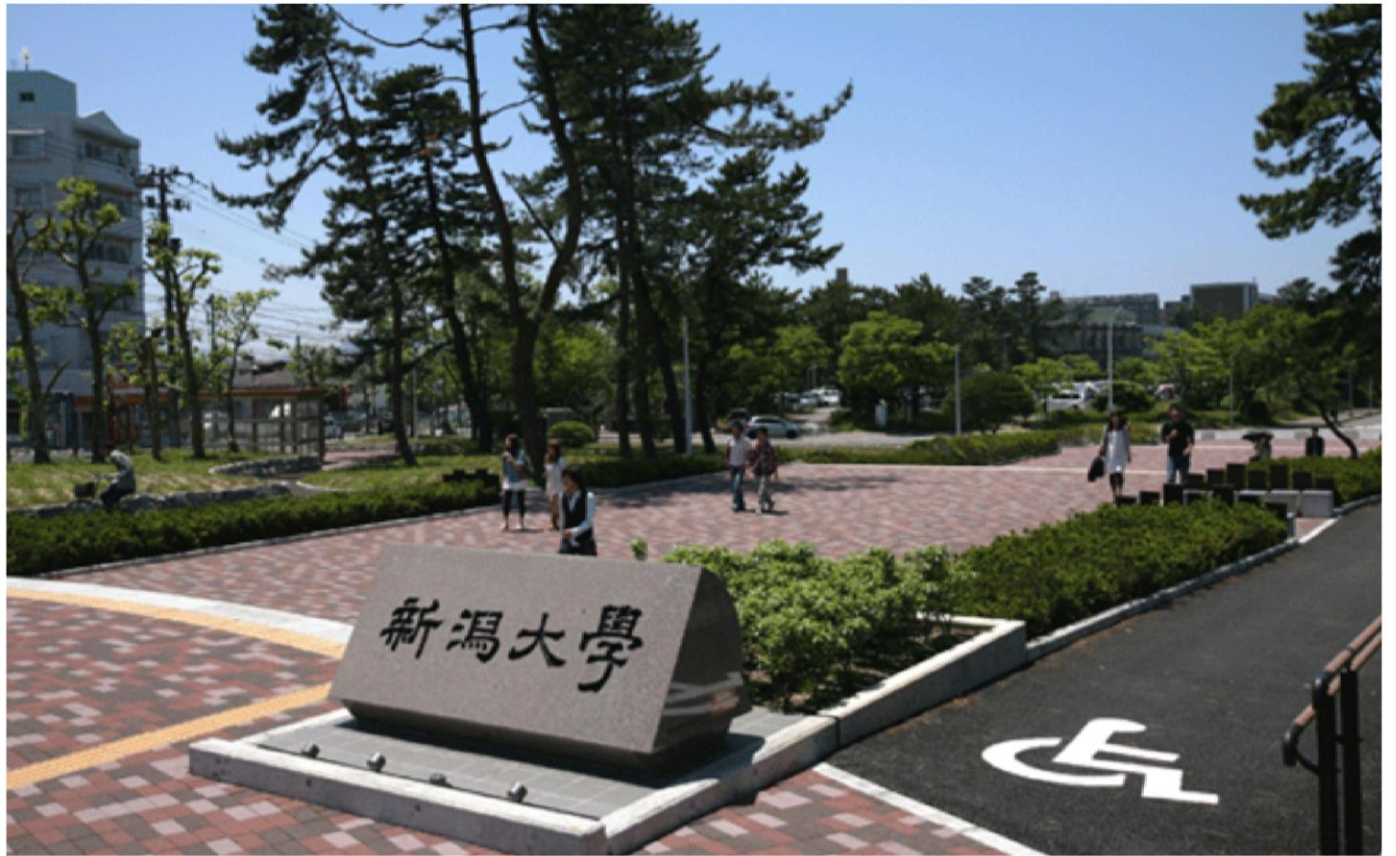
経済状況の回復にともない私立大志向が復活し、**国公立志願者数が昨年度に引き続き減少、首都圏の受験生の地方国公立大への出願の流れもさらに鈍化したことが背景にあると思われます。**

加えて、国公立大合格率を向上させるための真友ゼミ各校の改善の取り組みも功を奏したと思われます。その一方で、日大、専修大などの首都圏中堅私大の合格率が前年よりも落ちました。**東京の私大は全体的に難化したようです。**

私立大学一般入試志願者数の推移



東京の私立大の定員抑制という政策の影響が大きかったと見られますが、定員抑制の影響の大きさを事前に見積もりきれなかった我々の判断の甘さもありました。



来年度の新潟県の入試動向の予想

来年度の新潟県内国公立大の入試動向はどうなっていくと考えられるでしょうか。

定員抑制政策による東京私立大の入学難易度の予想される上昇は、県内上位の高校生が浪人してMARCHレベル私大を目指す流れにブレーキをかける可能性があります。

その場合、現役での県内進学志向を高め、県内国公立大の倍率がこれまでの減少傾向から上昇に転じる可能性があります。

また、県内上位生が地方にとどまる傾向が大きくなるとしたら、それは新潟県だけの話ではなく、少なくとも関東甲信越および北陸地域全体に共通することです。

地域内各県の上位生の一部が地域内他県の中堅国公立大に出願する流れも強まり、北陸各県からの新潟大への出願者数が増加する可能性があります。

県内国公立志望の受験生は厳しい競争になる可能性を覚悟しておくべきだと思います。



ゴールの先に見えてくる次のゴール

しかしながら、新潟大はじめとする県内国公立大の難易度が本当に上昇するかどうかを心配するより、**最初から新潟大以上の難易度の大学を目指す気持ちで勉強することのほうが大事です**。新潟大に行きたいのなら、新潟大を第一志望にするのではなく第二志望にするのです。

昨今の高校の進路指導は、生徒に高い目標を目指すよう指導するのではなく、安全に確実に合格できる大学を受験するよう指導し、場合によっては、生徒の意思を抑えてでも志望のランクを下げるよう説得してくるほどです。



しかし、私たち真友ゼミは「新大に行きたいのならセンターで満点を目指せ！」を受験生のお子さんに強く訴えています。「志望校の合格ラインの点数までが取れていればよい」という甘い考え方をしないよう指導しています。「これだけやればもう十分」ということが受験にはありません。

学校での勉強と共に、真友ゼミが提供している教材や指導サービスを完全にこなしたとしても、まだゴールにはたどり着きません。必ず次にやるべき課題が見えてくるのです。そこにたどり着くと、もう次にやるべき課題が見えてくるのが本当の勉強というものです。



「思考力」を身につけることの重要性

具体的には、知識の習得という第一段階のゴールの先に「思考力」の習得という課題が待ち受けています。**知識の習得だけで取れる点数には限界があります。しかし「思考力」を身につければ、限界を突破できます。**

ここでの「思考力」とは、既に知っている情報を基にして論理的に未知の情報を推測する**「知識の活用能力」**のことです。真友ゼミ各校では、それぞれの校舎のスタイルで、こうした「思考力」習得のサポートに取り組んでいます。

受験生のお子さんをお持ちの保護者の皆様方には、何卒、受験の過酷な現実をご理解頂き、おそらくは**人生最大の試練に挑むお子さんを心身共に全面的にバックアップして頂きますようお願い申し上げます。**我々真友ゼミスタッフも全員一丸となり、お子さんの必死の努力が報われるよう全力でサポートしてまいります。

真水彩奈(教務課長・三条校塾長)

H30年度真友ゼミ合格体験記



後藤 拓也さん
(巻高校)
法政大学
スポーツ健康学部

現役時代は部活に熱中して勉強してなかったので学年最下位まで落ちました。だから勉強から逃げていた自分を反省して逃げないと決意しました。最後までE判定でも、諦めないことが大事だということを学びました。先生方には基礎から鍛え直してもらえたことを感謝しています。

国公立大学に落ちて悔しいですが、日東駒専に合格できたので良かったです。勉強すれば成績は上がると思っていたのに、思うように上がらなくて、受験の厳しさを実感しました。無理だと思っても努力して挑戦し続けることの大切さ、自分の目標を最後まであきらめない大切さを学びました。



大久保 伊織さん
(三条東高校)
東洋大学
総合情報学部



三塚 理記さん
(東北学院高等学校)
高崎経済大学
地域政策学部

嬉しい気持ちでいっぱい、周りの方々に感謝です！受験勉強を始める前に部活中心で、定期テストなど中途半端な勉強でしか挑んでなかったのも、勉強方法が確立されてなかったです。実際始めてから、どうすればよいかも分からず、**先生方に積極的に質問し、受験の道のりを良い方向に持って行けました。**

受験勉強を始める前に、1日に1分も勉強していない日が多かったです。始めてから、成績が思うように伸びず、辛い日が長く続きましたが、諦めずに頑張ってよかったです。**模試の点数や順位に一喜一憂せずひたすら計画通りに勉強していくことの大切さがわかりました。自分のできること、できないことを見つめる良い機会になりました。**



伊藤 千夏さん
(直江津中等)
電機通信大学
情報理工学部